

総論

満点	40点	目標得点	28点	試験時間	60分	偏差値	74
大問数	4	小問数	40				
【解答形式】		選択式	23/40問	記述式	17/40問	論述式	0/40問
【問題難易度】		C	4/40問	B	18/40問	A	18/40問
※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：史料問題が2題から3題に増加し、ほぼ中心をなすようになった。しかも、未見史料問題である。
- 2：近現代史の出題が増加している。
- 3：一部の問題に難問が見られるが、全体としては正答すべき問題を完答し、合否をわける問題を半分以上クリアできれば合格は可能であろう。

こんな力が求められる！

センターレベルの正誤問題では9割はとれないと厳しい。正誤自体はかなり微妙な選択肢が多いため、かなり見慣れることが必要である。お茶ゼミのテキストで言えば、早慶レベルの用語だけでなく、同時代の文化的なことなど時系列でとらえられるようにしておくこと。つまり別のページに載っているけど同時代の関連事項などを年表などでチェックすること。そして、授業後に、山川出版『詳説日本史』などの学校の教科書の該当部分を熟読する作業が必要である。さらに、史料テキストで、授業で取り扱わなかった史料も徹底して読み込むこと。なお、未見史料は必ず本文もしくは問題文や選択肢にヒントがあるので、背景的な知識があれば解ける。ただ、史料を単に暗記してただけでは厳しいので、ちゃんと古文のように読まないとは駄目である。そのためにも史料に対する慣れをつけよう。

参考図書

- 山川出版『詳説日本史』
- 永井荷風『断腸亭日乗』

大問別分析

【1】

予想配点	8 / 40 点	時間配分の目安	10 / 60 分
出題分野・テーマ	古代・中世の貨幣経済		
出題形式	正誤・記述		
小問別解答と難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す A3/8 B4/8 C1/8 1-乾元大宝 A 2-大宰府 A 3-音戸の瀬戸 A 4-う B 5-え C 6-え B 7-あ B 8- 一貫文 B		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	4 月期 3・4 回目の講義さらには冬期の社会経済史 I の講義と連動しているので、テキストを復習しておけばほぼ取れるところである。		

●解答のポイント&学習対策等

古代・中世のテーマ史は1題必ず出題される。出題テーマは貨幣経済を中心として政治・外交に触れている。過去問を見てテーマ史を徹底して問題演習しておく必要あり。なお、他学部でもテーマ史は頻出なので法学部に限らずトライしてみるといい。5の正誤問題の内容はやや難問であるが、早稲田は知らない選択肢を作ってくる傾向にあるので、知らないものは保留にして知っているものから消去法で解く癖をつけておこう。

【Ⅱ】

予想配点 8 / 40 点	時間配分の目安 10 / 60 分
出題分野・テーマ 列強の接近と幕府の外交政策	
使用されている資料 史料	
出題形式 正誤・選択・記述	
小問別解答と難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す A5/8 B2/8 C1/8 1-おA 2-ロシアA 3-いA 4-えA 5-えA 6-海防C 7-い・えB 8-あB	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 7月期1回目の講義さらには冬期の対外交渉史Ⅰの講義と連動しているので、テキストを復習しておけばほぼ取れるところである。	

●解答のポイント&学習対策等

幕府が通商を求めたレザノフへの返答書の未見史料問題である。史料内容と設問の3から逆算して内容を捉える事ができる。7は知識問題、9は古文のように読解して解くしかないが、ある意味ボーナス問題といえる。全体的に高得点が望めるところである。

【Ⅲ】

予想配点 12 / 40 点	時間配分の目安 20 / 60 分
出題分野・テーマ 昭和初期の軍部の台頭	
使用されている資料 史料（永井荷風『断腸亭日乗』）	
出題形式 正誤・選択・記述	
小問別解答と難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す A4/12 B8/12 1-えB 2-団琢磨A 3-井上準之助A 4-血盟団A 5-うB 6-犬養毅B 7-うB 8-うA 9-あB 10-えB 11-いB 12-十月事件B	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 夏期近現代Ⅱと後期の政治史、さらには冬期の対外交渉史Ⅱの講義と連動しているので、テキストを復習しておけばほぼ取れるところである。	

●解答のポイント&学習対策等

最近注目されている永井荷風『断腸亭日乗』からの未見史料問題である。ほぼ同じ箇所を使用した問題が2007年度の成蹊大学経済学部で出題されているので解いてみてほしい。新タワー建設に伴って、かつて玉ノ井と呼ばれた東向島を中心とした文学で有名な永井荷風がよくマスコミで取り上げられているので、ちゃんとブームものも押さえておこう。今回の史料問題は読めば何のことかわかるし、正誤の内容からも逆算できる。並べ替え問題があるので、それぞれ年号を分析して並べ替えることとなる。なお法学部

Benesse® お茶の水ゼミナール

の未見史料の短文並べ替えも頻出である。そこで、年号もかなり覚えておく必要がある。

【IV】

予想配点 12 / 40 点	時間配分の目安 20 / 60 分
出題分野・テーマ 戦前戦後の経済史	
使用されている資料 史料	
出題形式 正誤・選択・記述	
小問別解答と難易度 ※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す A6/12 B4/12 C2/12 1-あB 2-産業合理化A 3-うB 4-おB 5-い・え（法律Xは国家総動員法）C 6-切符制A 7-持株会社整理委員会A 8-う（1947）A 9-石油危機A 10-公正取引委員会B 11-えC 12-田中角栄A	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 夏期近現代Ⅱと9月期の戦後史、さらには冬期の社会経済史Ⅱの講義と連動しているので、テキストを復習しておけばほぼ取れるところである。ただやや難問も見受けられる。	

●解答のポイント&学習対策等

未見史料問題自体は、読めば何を指しているかはわかるレベルである。1の答え自体は難問であるが、消去法で導いてほしい。早稲田の選択肢は、教科書レベルではわからないような選択肢がしばしば見受けられるが、保留にして既存の知識で消去していくのが解き方と考えてほしい。盲点を覚えても2度と出ないようなものもたくさんあるので、まずは基本知識をあげて消去法で対応しよう。ちなみに、5と11はまず一般受験生では解答不能だと思われる悪問であるので、できなくても気にしないこと。筆記レベルを確実に取れば大丈夫。8でもやはり年号を聞いているので【Ⅲ】と同様に近現代の年号は頻出である。戦後史も今回のように頻出なので早めに学習に取り掛かる必要がある。その際に、戦後の史料も教科書やテキストでチェックしておこう。